

学位論文  
2024 年度

気象災害経験が気候変動政策への支持に与える影響: ターゲティングの効果に注目して

要旨

本稿では、気象災害の被害経験の想起による気候変動と被害経験の関連付けが、政策支持に与える影響を評価した。また、効率的に政策支持を高める手法として、属性に基づき介入対象を抽出するターゲティングの有効性を検証した。これらの検証の為、カンボジアの 424 世帯を対象に実験を行った。無作為に抽出した参加者への介入では、気象災害経験の想起が CO2 排出規制と再エネ発電所政策への支持度を有意に増加させ、水インフラ政策にも増加傾向がみられた。また、支持確率が低い層への介入では、CO2 排出規制および水インフラ政策について、介入が政策支持を高める傾向が確認されたが、再エネ発電所政策では有意な結果が得られなかった。したがって、支持確率が低い層を対象としたターゲティングは、CO2 排出規制と水インフラ政策に限り有効だと示唆された。本研究の貢献は、第一に、気候変動政策の支持の決定要因として、気候変動と被害経験との関連付けがあることを明らかにした点である。第二に、政策支持の可能性が低い層へのターゲティング介入が、効率的に政策支持を向上させる具体的なアプローチ手法であることを示した点である。

キーワード：気候変動、政策支持、被害経験、ターゲティング、無作為化比較試験